

令和4年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第七小学校 第2学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<p>〈知識・技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使わせること。 <p>〈思考・判断・表現〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 聞き手に伝わるように事柄の順を考えて、話をさせること。 自分の思いや考えを明確になるように事柄の順序を考えて文章を書かせること。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞いたり読んだりする際に新しい言葉に着目させ、意味を確かめる。話したり書いたりする際に様々な表現を例に挙げ、使わせる。 聞き手に伝わるかどうかを想像しながらメモに書き、話の構成を考えさせる。 読み手を意識して文章を書かせる。 「始め-中-終わり」を記入できるワークシートを用いて、構成を考えさせる。 	<p>〈知識・技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 普段使わない言葉の意味を考えさせたり、言葉から連想させたりして、新しい言葉に関心をもたせたことは有効だった。 <p>〈思考・判断・表現〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 聞き手に感想や質問をさせることで、徐々に話の構成を考えることができていた。 ワークシートを使用したことで文章の全体を把握させることができた。
算数	<p>〈知識・技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 十、百などを単位として、数の大きさを捉えさせること。 <p>〈思考・判断・表現〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えさせること。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を用いた活動を通して、数の相対的な大きさについて理解させる。 既習の数の見方、計算の仕方を活用しながら、具体物や図を用いて考えさせる。 	<p>〈知識・技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 位取りの表を使用したことで、数の大きさを捉えさせることができた。 繰り返し学習させることで正答率が上がった。その一方で、個別指導の必要な児童へ支援が難しかったため習熟につながりにくかった。 <p>〈思考・判断・表現〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 答えを導き出した過程を話し合ったり、説明させたりする活動を通してすすんで発表する児童が増えた。
生活	<p>〈知識・技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活上必要な習慣や技能を身に付けさせること。 <p>〈思考・判断・表現〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動や体験を通して、自分自身や生活について考え、表現させること。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な人々、社会及び自然と直接関わりながら、生活のきまり、言葉遣いや振る舞いを身に付けさせる。 気付いたことを多様な方法で表現し伝え合うことで、関連付けて考えさせる。 	<p>〈知識・技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報収集の方法を選んで調べる活動ができるようになった。 <p>〈思考・判断・表現〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 町探検、生き物博士、遊び名人などの学習を通して、自分なりに発見や工夫を繰り返し、聞き手に楽しく聞いてもらえるような表現をさせることができた。
音楽	<p>〈知識・技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> お互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けさせること。 お互いの演奏や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けさせること。 声や身の回りの様々な音の特徴を生かして、音楽をつくる技能を身に付けさせること。 <p>〈思考・判断・表現〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもたせること。 どのように音を音楽にしていかにについて思いをもつこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と歌声を聴き合ったり、体の動きに合わせて歌ったりする活動を増やし、客観的に聞けるようにする。 動画を活用し、魅力ある歌声に接する機会を増やせるようにする。 自然の中の音や、楽器の音の出し方を子供たち自身で見つける機会を設ける。 楽器固有の音色を意識した打ち方や弾き方などを身に付けられるように指導する。 感じ取ったことを基に、いろいろな表現の仕方を体験させるようにする。 実際に音を試しながら音楽にしてい活動の時間を十分確保する。また、児童が見つけた音楽を聴き合い、表現のよさを伝える活動を設ける。 	<p>〈知識・技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> お互いの演奏や伴奏を聴いて歌ったり演奏したりする技能を身に付けさせることができた。学級全体で話し合っ、歌い方について見付けたり、体を動かして歌ったりする活動を取り入れたことは有効だった。 音色に気を付けながら、正しい奏法で合奏させることができた。タブレットを活用し、教師の見本演奏動画を視聴させたことが有効だった。 <p>〈思考・判断・表現〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 音を試しながら音楽をつくる活動の時間の確保が不十分だった。たくさん楽器に触れ、いろいろな表現を試す学習計画を丁寧につくる必要があった。
図画工作	<p>〈知識・技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の用具や材料を使う経験に加え、新しい用具や材料を安全に使わせて、用具や材料のよさに気づき、基本的な技能を高めさせること。 <p>〈思考・判断・表現〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活体験や、身近なものやこと、経験を基にして発想を広げて主題を見付けさせること。 	<ul style="list-style-type: none"> 大人数の中で活動することに課題のある子供が多いため、場の設定や指導方法、ルールづくりを工夫し、安全指導を徹底しながら知識と技能が蓄積されるようにする。 身近な自然や、経験などに興味をもたせるように、授業の題材や導入を工夫する。子供同士の経験やイメージを共有する場を設けることで、発想が広がるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 用具の使い方やよさを味わわせて基本的な技能を高めさせることが困難だった。子供の人数が多く、集中力を継続させることが難しいため、一斉指導が相応しくない場面があったことが課題である。 生活体験を基にして主題を見付けさせることができた。導入で生活に関係する話や写真を見せたり、話し合いの場を設けたことが有効だった。
体育	<p>〈知識・技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> マットを使った運動遊びでは、手で支えての体の保持や回転をさせること。 <p>〈思考・判断・表現〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えさせること。 	<ul style="list-style-type: none"> 手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりするなどして遊ばせる。 体の動かし方が身に付くように練習の仕方や場を設定するなどの配慮をする。 複数の運動遊びのコースを設置した中から、遊び方を選ばせる。 友達のよい動きを擬態語や擬音語で表現したり、学習カードに書いたりさせる。 	<p>〈知識・技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物歩きや手押し車などの遊びを取り入れたことで、手を支えながら、体の保持や回転ができた児童が増えた。 <p>〈思考・判断・表現〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 複数の運動遊びコースを設置して、様々な動きを体験させたことで、挑戦したい動き方を選択させることができた。 友達の動き方の良かったところを伝えたことで、良い動きを意識して体を動かす児童が見られた。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 資料の道徳的価値と自分の経験や感じ方、考え方と照らし合わせながら、考えを深めさせること。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料提示の仕方、発問の吟味、話し合いでの意見交流等、道徳的価値を自分の課題として捉えることができるように場を設定し、児童自らが考え、理解できるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の気持ちの変容を通して、ワークシートに書いたことを伝え合い、心にとった友達を紹介する活動を取り入れた。回数を重ねるごとに自分の課題として捉える児童が増えた。 発言する児童が、決まった児童が多いことが課題。そのため、少人数で意見交流をする時間を設けた。

※ 枠の大きさは適宜調整して、1枚に収まるように作成してください。